



# 2025年3月期 第2四半期 決算説明会

2024年11月12日

電気興業株式会社



## 1 2025年3月期 第2四半期連結業績

---

## 2 2025年3月期 連結業績見通し

---

## 3 中期経営計画「DKK-Plan2025」 ローリングプランの進捗状況

---

## 4 注力セグメント

---

## 5 全社トピックス

---

## 6 サステナビリティの取り組み

---

## APPENDIX

---

# 1. 2025年3月期 第2四半期 連結業績

---

# 1-1. 第2四半期連結業績ハイライト



- 売上高は、前年同期比4.6%の増収
- 事業構造改革による収益体制の構築を推進し、各種利益についても前年同期比改善

(百万円)	24/3 上期実績	25/3 上期実績	増減額	前年同期比
売上高	12,529	<b>13,108</b>	579	4.6%
営業利益	-1,163	<b>-529</b>	634	-
経常利益	-1,037	<b>-533</b>	504	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	-811	<b>-454</b>	357	-

# 1-2. 売上高・営業利益



- 電気通信、高周波の両事業分野において前年同期比増収増益
- 生産性の向上、販売価格の見直しなどを推進し、営業利益率は前年同期比で5.3ポイント改善

(百万円)	24/3 上期実績	25/3 上期実績	増減額	前年同期比
売上高	12,529	<b>13,108</b>	579	4.6%
電気通信	8,019	<b>8,116</b>	97	1.2%
高周波	4,451	<b>4,934</b>	483	10.9%
営業利益	-1,163	<b>-529</b>	634	-
営業利益率	-9.3%	<b>-4.0%</b>	-	-
電気通信	-291	<b>-43</b>	248	-
高周波	462	<b>724</b>	262	56.7%

※電気通信・高周波関連事業の営業利益はセグメント利益を記載しております。

# 1-3. 各セグメント業績－電気通信－



各セグメント売上高（単位：百万円）

24/3上期実績

25/3上期実績

移動通信

2,085 ➤ 1,920 (-7.9%)

移動通信事業者における品質改善に向けた需要も一部発生しているが、設備投資は依然として全体的に抑制傾向

固定無線  
(防衛は除く)

1,126 ➤ 1,341 (+19.1%)

緊急防災・減災事業債の期限を控えていることから、自治体における防災行政無線の更新需要が増加傾向

防衛

1,227 ➤ 1,128 (-8.1%)

売上高は前期を下回ったものの、防衛費予算の増額の影響を受け、市況環境は堅調に推移

放送

1,017 ➤ 1,158 (+13.9%)

放送事業者による保守・メンテナンス需要は回復傾向にあり、需要を積極的に取り込む

ソリューション

35 ➤ 152 (+334.4%)

サイバーコアの画像AI技術と当社の無線通信技術を組み合わせ、様々な社会課題を解決する事業を推進

その他

2,528 ➤ 2,415 (-4.5%)

子会社による鋼構造物の表面処理需要の継続的な確保に加え、環境負荷の低い製品において、積極的に需要を開拓

※（ ）内は前年同期比増減率

※中期経営計画「DKK-Plan2025」ローリングプランにて、「防衛」「ソリューション」「高周波部門」を注力セグメントに設定

# 1-3. 各セグメント業績－高周波－



各セグメント売上高（単位：百万円）

24/3上期実績

25/3上期実績

誘導加熱装置

3,120 > 3,488 (+11.8%)

自動車関連業界における設備投資需要は全般的に回復基調

熱処理加工

1,331 > 1,455 (+9.3%)

認証不正問題の影響が一部発生していたが、自動車メーカー各社の生産に伴う需要は回復傾向

高周波新領域

0 > 0 (-)

過熱水蒸気装置を用いた新たな事業領域の開拓に向け、技術の高度化や需要の創出に向けた取り組みを推進

※（ ）内は前年同期比増減率

※中期経営計画「DKK-Plan2025」ローリングプランにて、「防衛」「ソリューション」「高周波部門」を注力セグメントに設定

## 2. 2025年3月期 連結業績見通し

---



## 2-1. 売上高・営業利益の見通し

- 注力セグメントに加え防災行政無線の需要取り込みを図り、前期比増収
- 電気通信関連事業においては、固定費の削減効果等により黒字転換の見通し
- 高周波関連事業においても、引き続き堅調な推移となる見通し

(百万円)	24/3 通期実績	25/3 通期予想	増減額	前期比
売上高	28,864	<b>33,000</b>	4,136	14.3%
電気通信	19,136	<b>22,100</b>	2,964	15.5%
高周波	9,623	<b>10,800</b>	1,177	12.2%
営業利益	-1,787	<b>500</b>	2,287	-
営業利益率	-6.2%	<b>1.5%</b>	-	-
電気通信	-56	<b>1,300</b>	1,356	-
高周波	1,023	<b>1,500</b>	477	46.6%

※電気通信・高周波関連事業の営業利益はセグメント利益を記載しております。

※25/3通期予想は、2024/11/12公表の最新予想

© 2024 DKK Co., Ltd. All Rights Reserved.

## 2-2. 各セグメントの見通し — 電気通信 —

各セグメント売上高（単位：百万円）

24/3実績

25/3予想

移動通信

5,688 ➤ 6,400 (+12.5%)

通信品質改善に向けた設備投資需要に回復の兆しが見られるが、全般的には急速な回復は見込めない見通し

固定無線  
(防衛は除く)

2,814 ➤ 4,200 (+49.3%)

2026/3期に期限を迎える「緊急防災・減災事業」への補助金の活用に向けて、防災行政無線の実施設計・施工が実施される見通し

防衛

1,692 ➤ 3,000 (+77.3%)

防衛費予算増額の影響が継続し、各種装備品、既存設備の維持・点検整備需要を積極的に獲得する

放送

3,111 ➤ 3,300 (+6.1%)

放送設備の更新需要は一定程度発生するが、市場としては縮小傾向。AMラジオ局のFM局への変更に伴う需要が発生

ソリューション

351 ➤ 800 (+127.9%)

「人流分析ソリューション」を中心に、幅広く受注の拡大を図る

その他

5,478 ➤ 4,400 (-19.7%)

鋼構造物の表面処理需要に加え、バックアップ電源向け燃料電池等環境製品の拡充を図る

※（ ）内は前期比増減率

※25/3通期予想は、2024/11/12公表の最新予想

※中期経営計画「DKK-Plan2025」ローリングプランにて、「防衛」「ソリューション」「高周波部門」を注力セグメントに設定

© 2024 DKK Co., Ltd. All Rights Reserved.

## 2-2. 各セグメントの見通し－高周波－

各セグメント売上高（単位：百万円）

24/3実績

25/3予想

誘導加熱装置

6,872 >> 7,800 (+13.5%)

自動車関連業界の設備投資需要回復を確実に捉え、既存部品に加え、EV関連部品の需要拡大に取り組む

熱処理加工

2,738 >> 2,900 (+5.9%)

自動車生産台数の回復に伴う需要の確実な獲得、熱処理試作拠点新設に伴い需要の拡大を図る

高周波新領域

12 >> 100 (+733.3%)

各種展示会への出展、PRを強化し、過熱水蒸気設備の新たな用途・顧客の開拓を着実に進める

※（ ）内は前期比増減率

※25/3通期予想は、2024/11/12公表の最新予想

※中期経営計画「DKK-Plan2025」ローリングプランにて、「防衛」「ソリューション」「高周波部門」を注力セグメントに設定

## 2-3. 株主還元

### 株主還元方針

- 2027/3期までに、2023/3期から累計100億円超の株主還元を実施
- 配当については、配当性向40%に加え、DOE1.5%を目途とした下限値を設定
- 配当に加え、資本効率の向上および株主還元強化に向けた自己株式取得を実施

### 1株当たり配当金

(円)	23/3	24/3	25/3 (予想)
年間合計	60	60	60
中間	30	30	30
期末	30	30	30

### 株主還元の進捗状況 (2023年/3期～2025年/3期末まで累計)

配当**18億円** + 自己株式取得**60億円** → 計**78億円**

連結業績や資産状況、業績改善に向けた投資等を考慮し、機動的に行う

# 3. 中期経営計画「DKK-Plan2025」 ローリングプランの進捗状況

---

# 3-1. 数値目標

- 「DKK-Plan2025」の数値目標であるROEの達成年度を2年延期し、2027/3期の達成を目指す

## ローリングプラン最終年度 2027/3期の数値目標

	2025/3期 当初計画	2024/3期 実績	2025/3期 見通し		2027/3期 目標
売上高	430億円	288億円	330億円		400億円
営業利益	—	-17億円	5億円		18億円
当期純利益	20億円	-19億円	4億円		18億円
D/Eレシオ	0.2~0.3倍	0.15倍	0.16倍		0.2~0.3倍
ROE	5.0%	-5.0%	1.1%		5.0%
株主還元	100億円~	63億円	78億円	※累計	100億円~
M&A投資	~40億円	15億円	20億円	※累計	40億円~

+ 2年  
➔

# 3-2. 進捗状況



- 抜本的な構造改革、財務戦略を実行することで、事業の変革を進め、業績改善を果たし、次期中期経営計画「DKK-Plan2028」へつなげる

## ローリングプラン 重点施策

## 2025/3期 上期 主なアクション

## 今後の対応事項

### 1.収益改善のための構造改革

- 市場環境を見据えた注力セグメントの選定と強化
- 組織のスリム化とリソースの集中
- 業務効率化と働き方改革

### 優先的に取り組み

- 事業ポートフォリオの最適化に向けたセグメント分析、リソースの集中
- 組織のスリム化による固定費削減
- M&Aの推進

- セグメントごとの戦略を明確化
- 生産性の向上による利益率の改善
- M&Aの更なる推進

### 2.中長期的な成長戦略

- コア技術の深耕と中長期を見据えた研究開発の選択と集中
- 事業戦略の遂行も見据えた人的資本戦略の実行

- 次世代通信に関する研究開発を推進
- 経営戦略の実現と人財育成に向けた、新人事制度への移行推進

- 開発状況の進捗管理と見える化による研究開発の最適化
- 経営戦略と人事戦略の連動の実現に向けた施策の推進

### 3.適切な資本構成

- アセットライト経営の推進
- 資本コストを意識した経営と事業活動の浸透
- 安定的な株主還元を実現するための基盤づくり

- 成長分野への投資実行
- 政策保有株式の計画的な縮減
- PRの強化にむけた媒体の強化

- エリアや事業領域に基づくグループ再編
- 適切な資本構成に向けた取り組みの推進

※本件に関する詳細は、2024年3月22日に開示した「中期経営計画 DKK-Plan2025 ローリングプラン」をご覧ください。

URL : <https://denkikogyo.co.jp/ir/management/dkk-plan/>

# 3-3. 収益改善に関する取り組み①



- 組織のスリム化や注力セグメントへのリソースシフト等の収益改善に関する各種取り組みの結果、両事業部門において原価率が改善

## 売上高原価率の改善状況

売上高原価率  
2024年3月期 上期比

電気通信  
関連事業

- 4.9%

- 注力セグメントを中心に原価率の改善を実現
- 工事案件の原価低減活動が大きく貢献

高周波  
関連事業

- 3.9%

- 材料や製造方法の見直し、生産効率の改善を推進

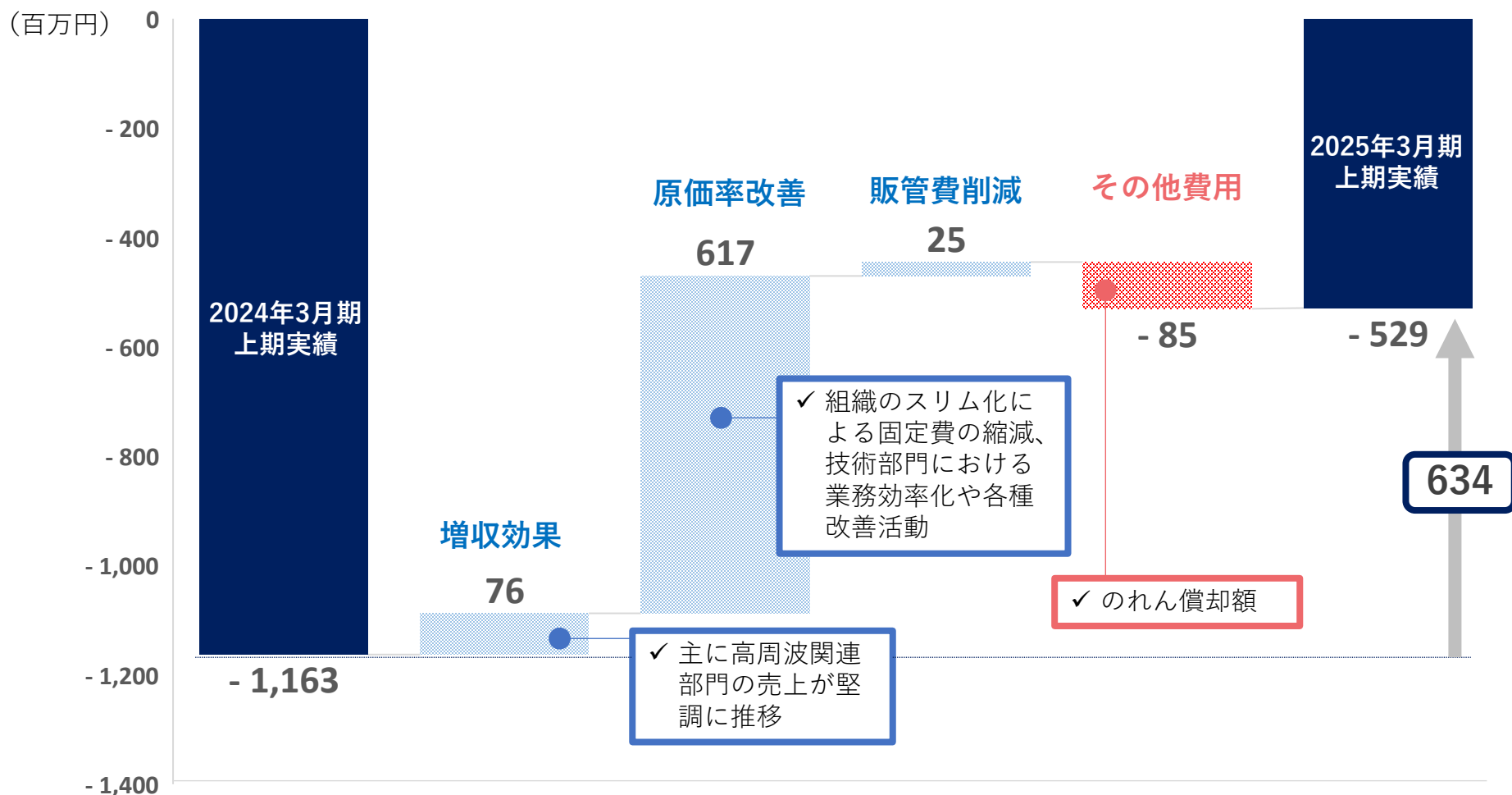


# 3-3. 収益改善に関する取り組み②



## 営業利益の増加要因

- 収益改善の取り組みの結果、前年同期より営業損益が634百万円改善



## 3-3. 収益改善に関する取り組み③

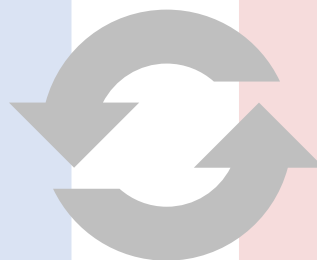


- 2024年4月に組織構造改革を実行し、注力セグメントへリソースをシフト
- 早期の業績改善および利益創出のため、営業と技術の両輪で取り組み中

### 営業

#### 受注案件の選択

- SFA（営業支援システム）の活用によるステップ管理
- 受注確度の精度向上
- 製品価格の見直し



### 技術

#### 品質・進捗管理の徹底

- 部品の共通化や作業の標準化による直接費の低減
- 原価変動リスクの常時モニタリング体制の整備
- 繁忙期と閑散期の平準化

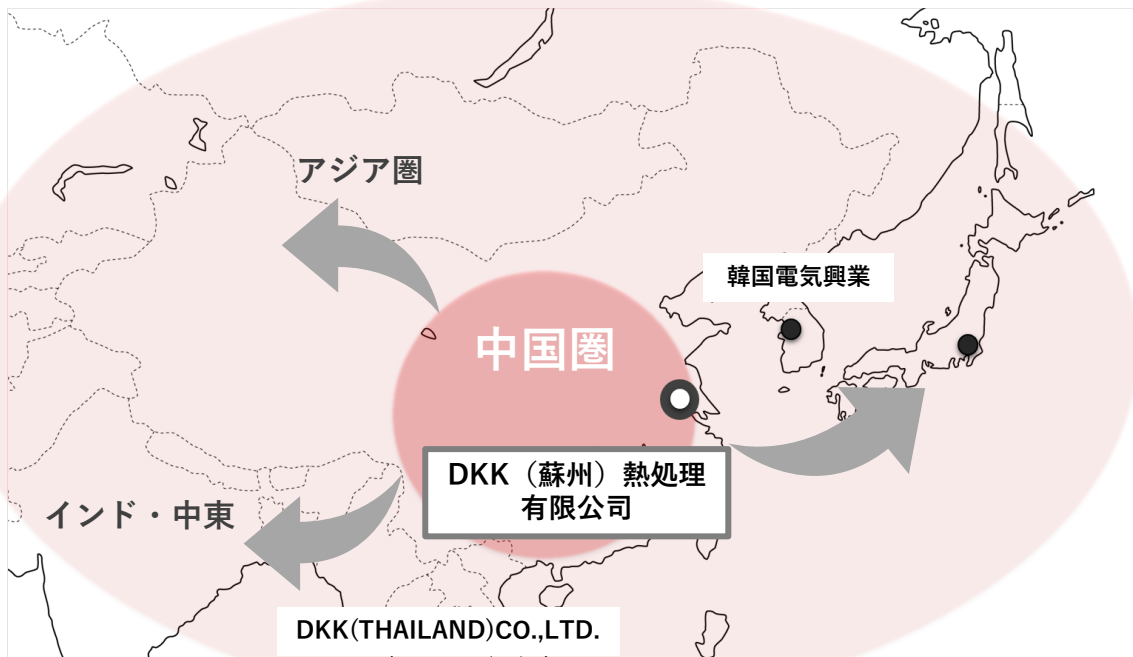
# 3-4. M&A推進（中国合併会社設立）



## 中国合併会社設立

- 2024年9月26日付で、蘇州元凱電子有限公司を子会社化
- 当社グループの中国拠点として、生産・調達面でのアジア連携を推進し、グループ利益の最大化を目指す

## アジア生産&調達連携



## 概要

名称

**DKK（蘇州）熱処理有限公司**

登記名称：迪凯凯（苏州）热处理有限公司

事業内容

- ✓ アンテナ製造・販売、電子部品販売
- ✓ 高周波誘導加熱装置、コイル等関連部品および発振機の製作・修理・メンテナンス

## 設立目的とメリット

海外展開強化



製造コスト低減



中国における調達能力向上



※本件に関する詳細は、2024年9月30日に開示した「（開示事項の経過）蘇州元凱電子有限公司の株式取得（子会社化）完了に関するお知らせ」をご覧ください。

URL：<https://denkikogyo.co.jp/10649/>

© 2024 DKK Co., Ltd. All Rights Reserved.

# 3-5. M&A推進（韓国における出資）



## 事業領域の拡大に向けた出資

- 韓国における高周波事業の領域拡大に向けて、韓国電気興業(株)によるコイル製造会社(株式会社 J.H T&C) への出資を実行

**JH T & C**  
TRAD & COIL

所在地：韓国 釜山広域市

### 事業内容

- ✓ コイルの製造・メンテナンス
- ✓ 熱処理受託加工



出資

**韓国電気興業  
(KDKK)**

所在地：韓国 仁川広域市

### 事業内容

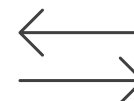
- ✓ 誘導加熱装置の製作・販売
- ✓ 設備のメンテナンス

目的・効果

協業による韓国における高周波事業の領域拡大



KDKKにおける  
**受注増加**



コイル製造ノウハウ等  
**技術交流**

- 株式会社 J.H T&Cは、コイル製造において高い技術力を保有しており、韓国の大手自動車メーカーや部品会社等と取引がある
- KDKKと協業することで、当社グループが韓国における事業領域の拡大を目指す

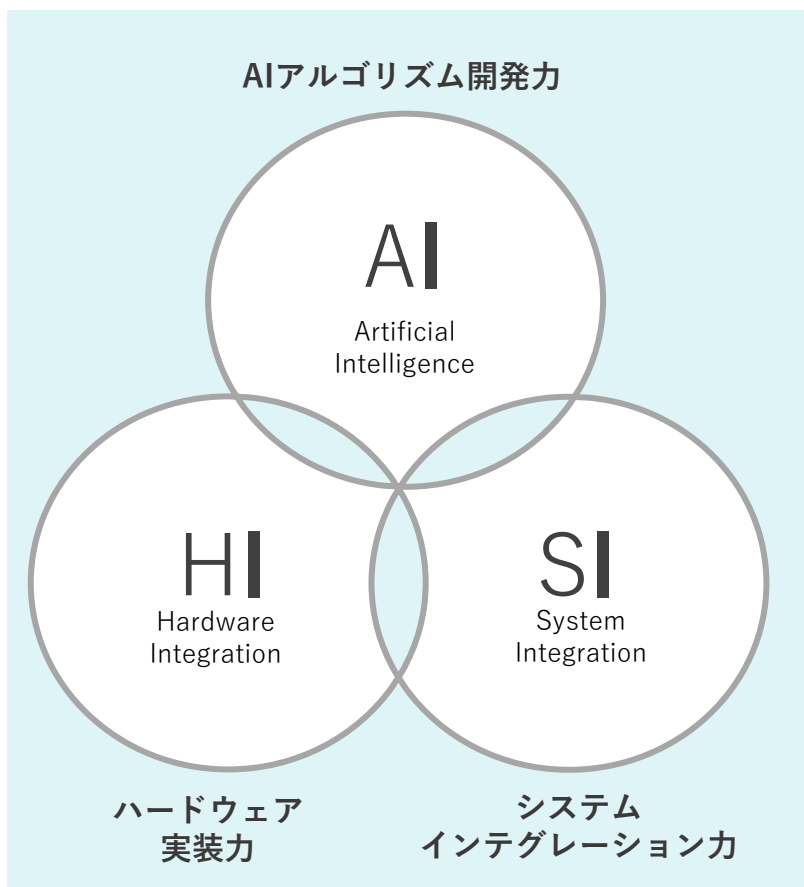
# 4. 注力セグメント

---

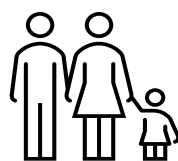
# 4-1. ソリューション①

## 人流・交通分析を用いたソリューションの確立

- グループ会社の(株)サイバーコアと共同で、3つの「I」を融合させた、新たなソリューションの開発を推進

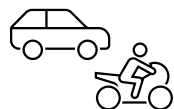


### 人流・交通量分析ソリューション



- ✓ 人数
- ✓ 性別
- ✓ 世代
- ✓ 往来方向

※個人情報削除



- ✓ 台数
- ✓ 車種
- ✓ 往来方向

検知



設置カメラ

- ・ 屋外環境における解析精度の高さに強み
- ・ データ数が豊富に蓄積され、来街者層や行動を詳細に把握可能
- ・ 平常時とイベント実施時を比較し、効果検証が可能
- ・ 可搬型カメラによる解析も可能

納入実績

盛岡市・高知市等



[こちら](#)より画像処理・ビジョンAI全般デモ動画がご覧いただけます。

# 4-1. ソリューション②



## 小田急電鉄(株)と共同で列車の安全確認システム構築の実証実験

- ・ (株)サイバーコアは、小田急電鉄(株)と共同で、列車出発時に出発できない要因を自動検知するためのアルゴリズムを開発

実証実験の目的

### 労働人口の減少を見据えた持続的な運行体制の早期確立



列車が安全に出発できない要因

- ✓ ホーム端の黄色い点字ブロックと列車の間に人がいる場合
- ✓ 閉扉後に傘や荷物などが挟まっている場合

アルゴリズム **Universal Anomaly Detection**  
(汎用異常検知)



様々な環境で検証

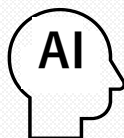
データを蓄積



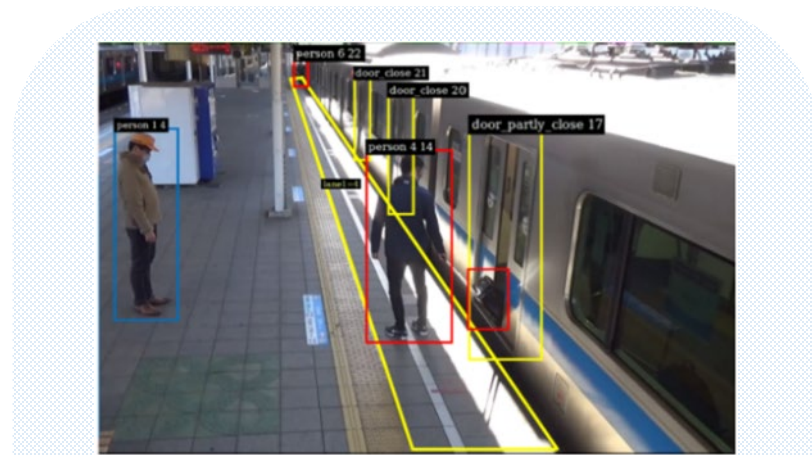
混雑時



天候・時間帯



- ・ 検知漏れ
- ・ 誤検知情報



検知画像 (イメージ)

### 実証実験でアルゴリズムの有効性を検証

場所：小田急線 新百合ヶ丘駅 (5番ホーム)

期間：2024年8月21日-2025年2月頃

- 点字ブロックの外側等の検知対象エリア
- 列車が安全に出発できない要因

## 精度を高めて実用化を目指す

## 4-1. ソリューション③



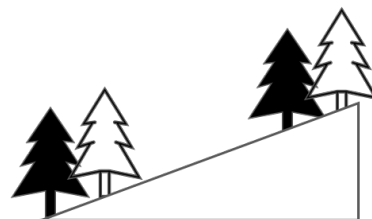
### ホテル椿山荘東京における最適な通信環境の整備

- ホテル内の様々な場所での通信が可能となり、ホテル椿山荘東京が誇る広大な日本庭園内においても最適な通信環境を実現



ホテル椿山荘東京の庭園に設置したWi-Fiアクセスポイント  
(景観を考慮した球体タイプ)

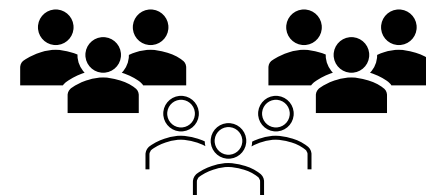
#### 高低差 × 屋外



#### 豊富な工事実績

- ✓ 高低差のある屋外の庭園でも、不感地帯が生じないように、無線LAN環境を整備
- ✓ 屋外庭園の景観を考慮した無線LAN機器の選定

#### 同時多数接続



#### ネットワーク構築技術

- ✓ 無線LAN機器の設置位置を再構築することで1,000人程度の大型会場でも同時多数接続が可能に

これまで培ってきた無線通信技術のノウハウを活かし、  
企画から運用までワンストップで、お客様の課題解決につながるサービスを提供



## 4-2. 誘導加熱・熱処理

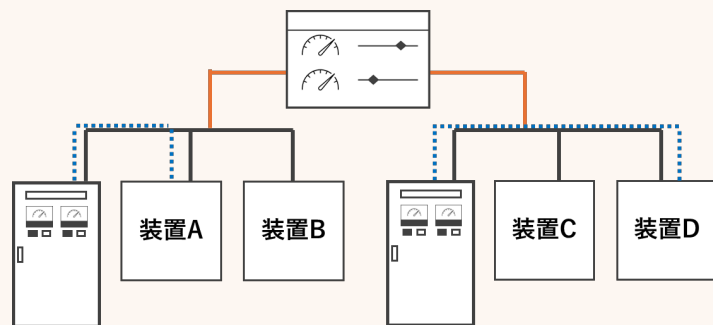


### 省エネ・省人化の実現

- 誘導加熱装置の制御技術を向上させることにより省エネを実現
- ロボットとカメラ等のセンシング技術の連携による、省人化および生産性を向上

#### 省エネ

##### ■ ピーク電力分散、不要電力停止



複数台の誘導加熱装置をコントロールして最大電力を低減

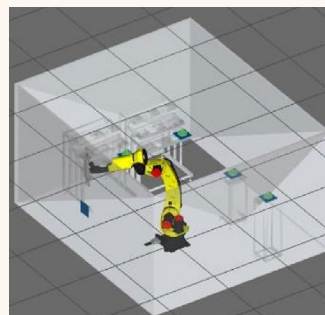
- ✓ 火力発電等の需要を低減
- ✓ 電源設備の小型化

再生可能エネルギー使用の促進  
カーボンニュートラルに貢献



#### 省人化

##### ■ ロボット・センシング技術との連携



- ✓ 労働力不足への対応
- ✓ 3K作業や単純作業を代替
- ✓ 自己診断機能による生産性の維持・向上

従業員は快適かつ安心安全な環境で、  
より働きがいのある仕事に従事



## 4-3. 高周波新領域

### 高周波誘導加熱技術の高度化により、粉末殺菌技術を確立

- 食品業界で課題の粉末殺菌について、特許技術を用いて開発を進め粉体殺菌に成功

#### 特徴

超高温過熱水蒸気により、粉末の変性を抑えた殺菌を実現

分析：酪農学園大学

ホウレン草粉末



加工前



加工後

色・風味に変化なし

#### 装置オプション

- 脱臭機能
- 既存加工装置へのHACCP (※) 対応

※HACCP (ハサップ)：食品等事業者が食品の安全性を確保するための衛生管理手法  
※本件に関する詳細は、下記サイトをご覧ください。

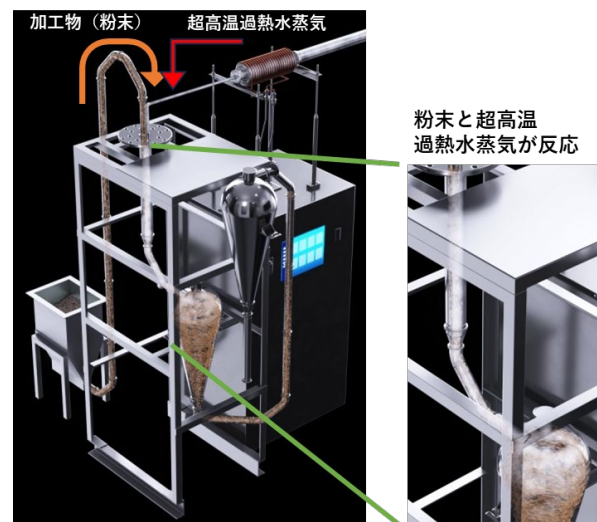
URL：<https://d-rapid.jp/lineup.php#reposition>

© 2024 DKK Co., Ltd. All Rights Reserved.

#### 特許

加工物(粉末)と過熱水蒸気の分離回収技術により、加工後の粉末回収率90%以上

Rapid SPIRAL (サイクロン式)



特許：7063948号

展示会出展

POWTEX®2024 (第25回国際粉体工業展東京)

(2024/11/27-29)

# 5. 全社トピックス

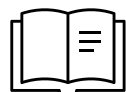
---

# 5-1. 研究開発（新たな電波資源の開拓）



## 世界初※サブテラヘルツ帯水平偏波オムニアンテナの製品化 ※当社調べ

- さらなる高速大容量通信が求められる6Gに向けてサブテラヘルツ帯の利用が検討されている



垂直・水平の偏波間で電波のふるまいの違いが明らかに

### ■ 当社の取り組み

**垂直偏波  
オムニアンテナ**

2020年度開発済み  
※販売実績有り



垂直偏波の開発  
ノウハウを活かして



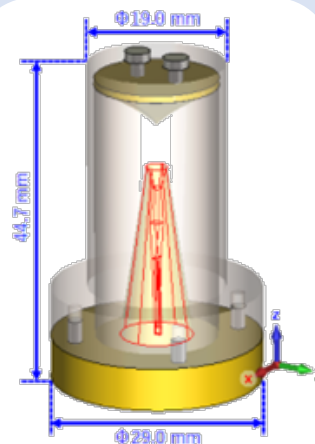
### 開発成功

広帯域で動作する

**水平偏波  
オムニアンテナ**

300GHz帯水平偏波オムニアンテナの  
設計と実機での性能確認に

**世界で初めて成功  
⇒製品化へ**



300GHz帯水平偏波  
オムニアンテナ外観

### ■ 今後

現在

2025

伝搬実験  
(標準化)

2030

伝搬実験  
(エリア設計)

2035

6G事業化

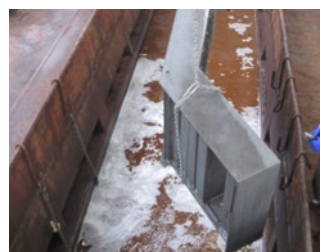
## 5-2. 成長投資(表面処理事業の拡充)①



### りん酸亜鉛処理ライン建設中 (2025年5月操業開始)

- グループ会社の(株)デンコーは、関東圏では最も大きなめっき槽を有する
- 錆の除去工程から運搬まで表面処理加工を一貫して行うことにより受注・売上の拡大を目指す

### ■ 表面処理のトータルサービス



錆の除去工程  
(脱脂・酸洗等)



めっき処理

新設



りん酸亜鉛処理

国内最大級



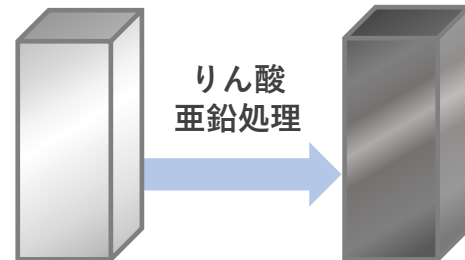
付帯工事・サービス  
(ブラスト処理・塗装等)



運搬

りん酸亜鉛処理

- ✓ 表面に不溶性化合物の被膜を生成させる処理で、亜鉛めっき面の耐食性を保ち光沢を低減
- ✓ 塗装下地としてブラスト処理と共に、需要が拡大



## 5-2. 成長投資(表面処理事業の拡充)②

### 投資効果

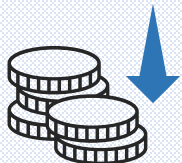


都市部再開発物件では、屋上構造物や外壁などで  
**意匠性を向上させた低光沢仕様が多く採用**  
(りん酸亜鉛処理に関する引き合いも増加)

りん酸亜鉛処理を  
当社工場ラインに組み込むことで



受注増加

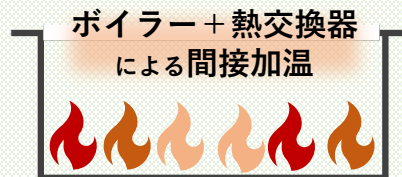


外注費削減

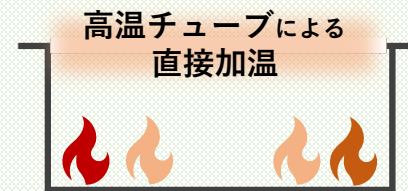
- ✓ 大型建築物件に対応可能となり **競争力強化**
- ✓ **品質向上**  
(溶融亜鉛めっきからりん酸亜鉛処理まで同一工場にて行うことにより、色彩・明度のばらつきが低減)
- ✓ **工期の短縮**が可能 (顧客の負担も軽減)

### 環境配慮

一般的な  
りん酸亜鉛処理設備



当社の  
りん酸亜鉛処理設備



※循環ポンプ設置

燃料使用量30%削減

- ✓ イオン交換機による水洗廃水再利用による構外排水ゼロ
- ✓ 省電カルフファンによる作業環境改善



SDGs

環境に配慮した  
処理設備を実現

新規商品の提案、新規業界への参入を目指す

## 5-3. 本社移転



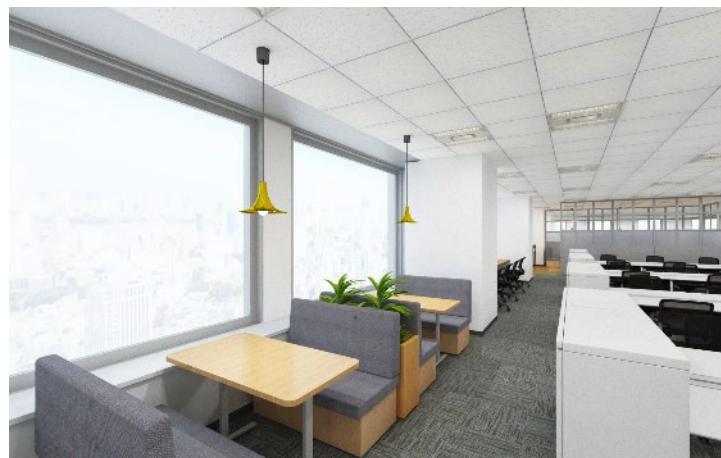
### 2025年春、東京都江東区豊洲へ本社移転予定

- 中期経営計画にて従業員エンゲージメント向上を掲げ、多様な働き方ができる職場環境の実現に向けた取り組みを推進



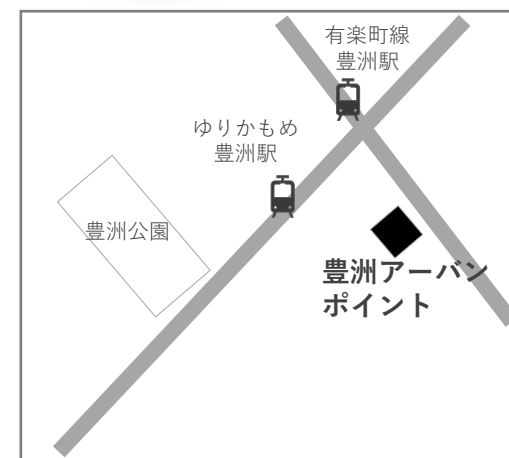
本社移転先  
(豊洲アーバンポイント)

#### 職場環境整備



イメージ図

#### 多様な働き方推進



周辺地図

※本件に関する詳細は、2024年8月9日リリースの「本社移転計画に関するお知らせ」をご覧ください。

URL : <https://denkikogyo.co.jp/10448/>

© 2024 DKK Co., Ltd. All Rights Reserved.

## 5-4. PRの強化①



### 展示会出展計画

#### 食品開発展2024 (2024/10/23-25)

超高温過熱水蒸気システム『D-Rapid®』の実機展示、処理を行った素材の展示



※D-Rapid®：ディーラピッドは当社の登録商標です

#### Japan IT Week (2024/10/23-25)

(株)サイバーコアと共同出展  
サイバーコアの画像解析AIを主軸とした  
当社が注力するソリューション事業の展示



#### 今後の出展計画

- マイクロウェーブ展2024 (2024/11/27-29)

- MOBAC SHOW2025 (第29回国際製パン製菓関連産業展) (2025/2/18-21)



## 5-4. PRの強化②



### SNSを活用した情報発信

- 2024年5月より、noteやXにて情報発信を開始



▲ 電気興業 公式note

- 開設以来、月2本以上の記事更新 (2024年11月11日時点: 18本)
- 累計PV数 12,813 (2024年11月11日時点)
- 「note pro運営がすてきと感じた法人noteまとめ」においても、当社の記事が紹介 (2回/半年)



URL:<https://biz.note.com/m/m5f671f85f117>



※本件に関する詳細は、2024年5月9日リリースの「[note]、[X] 公式アカウント開設のお知らせ」をご覧ください。

URL: <https://denkikogyo.co.jp/9817/>

# 6. サステナビリティの取り組み

---

# 6-1. 取り組み



マテリアリティ

2025/3 上期の主な実績

## 職場風土・働き方改革

- 労務管理強化を目的に、PC自動シャットダウンシステムを導入
- 次世代育成支援対策推進法に合わせた社内規程の改定を検討

## コーポレートガバナンスの強化

- 弁護士による役員向けグループコンプライアンス研修受講率：100%
- 取引先に対するコンプライアンス遵守に向けた社内教育の実施

## 社会インフラ整備への貢献

- 鹿沼工場ローカル5Gエリアを屋外に拡大、実証試験サービスを充実化
- ウェアラブルカメラの活用による施工品質の向上および効率化
- グループ全体における社有車ASV化率：48%

## 環境経営の推進

- 当社グループ会社に対し、SBT認定取得に関する説明会を開催
- 「グリーン調達ガイドライン」の基礎教育を建設部門に実施

## 新規事業の創出

- ホテル椿山荘東京の無線LAN更新およびエリア拡大工事（P.23参照）
- 知財に関する社内向け教育動画の作成
- 商標および意匠管理に関する社内向け相談窓口の開設準備

## 6-2. 人的資本経営の施策



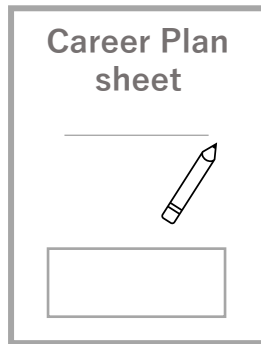
### 2024年度より「ジョブ型の新人事制度」を導入

- 職務の「見える化」を行い、社員の専門性を高め、KPIの達成につなげる

#### キーワードは「考動」

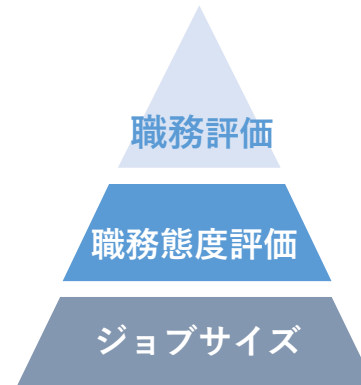
組織や社員が「何のために」「いま何を為すか」を認識した上で「自ら考え、行動する」

#### キャリアプランシートの導入



- 事業戦略に連動した社員のスキルアップ

#### 評価制度の見直し



- ✓ 職務の内容
- ✓ 難易度
- ✓ 職務遂行態度を評価

職務に人を割り当て、専門性の底上げを図る

## 6-3. サステナビリティレポート2024

- 昨年度に続き、2024年9月30日にサステナビリティレポート2024を開示
- 当社グループのサステナビリティに関する取り組みを一元化

### ■ 主なトピックス

- **中期経営計画「DKK-Plan2025」  
ローリングプラン**  
目標見直しの背景と具体的な数値目標、当社グループ全体の中長期的な方針について説明
- **事業を通じた社会課題解決**  
画像解析AI・過熱水蒸気を用いた新規事業の取り組み実績と今後の展望について紹介
- **環境**  
燃料電池用バイオメタノールなどの環境配慮製品や環境活動を通じた当社の貢献活動などについて紹介



# APPENDIX

---

# 25/3期 第2四半期連結業績



(百万円)	24/3	25/3	25/3	前年同期比		予想比	
	上期実績	上期予想	上期実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	12,529	13,800	<b>13,108</b>	579	4.6%	-692	-5.0%
売上原価	10,895	-	<b>10,781</b>	-114	-1.0%	-	-
売上総利益	1,633	-	<b>2,326</b>	693	42.4%	-	-
販売費及び一般管理費	2,796	-	<b>2,856</b>	60	2.1%	-	-
営業利益	-1,163	-350	<b>-529</b>	634	-	-179	-
営業利益率	-9.3%	-2.5%	<b>-4.0%</b>	-	-	-	-
経常利益	-1,037	-300	<b>-533</b>	504	-	-233	-
経常利益率	-8.3%	-2.2%	<b>-4.1%</b>	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	-811	-300	<b>-454</b>	357	-	-154	-

# 25/3期 連結業績見通し

(百万円)	24/3 通期実績	25/3 通期予想	増減額	前期比
売上高	28,864	<b>33,000</b>	4,136	14.3%
電気通信	19,136	<b>22,100</b>	2,964	15.5%
高周波	9,623	<b>10,800</b>	1,177	12.2%
営業利益	-1,787	<b>500</b>	2,287	-
営業利益率	-6.2%	<b>1.5%</b>	-	-
電気通信	-56	<b>1,300</b>	1,356	-
営業利益率	-0.3%	<b>5.9%</b>	-	-
高周波	1,023	<b>1,500</b>	477	46.6%
営業利益率	10.6%	<b>13.9%</b>	-	-
経常利益	-1,537	<b>600</b>	2,137	-
経常利益率	-5.3%	<b>1.8%</b>	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	-1,977	<b>400</b>	2,377	-
ROE	-5.0%	<b>1.1%</b>	-	-

※その他セグメントの売上高は省略

※電気通信・高周波関連事業の営業利益はセグメント利益を記載





## 電気興業株式会社

本資料の数値のうち、過去の事実以外の計画、方針、その他の記載にかかわるものは、将来の業績にかかる予想値であり、それらはいずれも、現時点において当社が把握している情報に基づく経営上の想定や見解を基礎に算出されたものです。

従いまして、かかる予想値は、リスクや不確定要因を含むものであって、現実の業績は諸々の要因により、予想値と異なってくる可能性があります。

かかる潜在的リスクや不確定要因としましては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行などの変更等が含まれます。